

# 里だより

No.403

令和7年8月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



## お楽しみ昼食会



八月号もくじ

(ページ)

施設長より……………1

相談より……………2

主任より……………3

サービス向上委員会より……………4

職員より……………5

事務局より・行事報告……………6

研修報告……………7

行事予定・  
ありがとうございました……………9

編集後記……………9

つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



## 施設長より

### 福祉人の補完



「暑いですね」が通常のあいさつではないかと思うくらい昼夜関係なく多用しています。ご家族の皆様におかれましても、お変わりありませんでしょうか。暑中見舞いならぬ、猛暑見舞いになります。

さて、アメリカの大手IT企業が、五月に六千人規模の人員削減を発表して話題になりましたが、七月に入りさらに、九千人規模の削減の方針が出されました。二年前にも一万人の削減を行っているのでかなりの人数になるようです。よくある経営不振からの人員削減案ではなく、AIの導入により業務の効率化が進んでいることや、AIサービスへの巨額投資が背景にあるとのことですが、削減の対象は一般職よりも、エンジニア職や管理職（中間）の割合が高いようです。これは、AIで管理することになる人の力が不要になりつつあり、業務省力化により、利益追求が図られるということなのでしょう。エンジニア職においては、コード書き込みのプログラミング作業だったのが、指示を与える仕事になりつつあるようです。指示を出して、映像化したり、それを動かしたりできるようになっていて、最近の生成AIの進化を素人の私たちも体感できるようになりました。

数年前に世界的金融機関が、AIの労働市場にもたらす混乱として三億人の雇用に影響を与えると予測してありましたが、いよいよという感じなのでしょう。

一方、我々福祉業界のみならず、多職種で人員不足の中、日本

はこれから外国人労働者に大きく頼らなければならぬとされています。人が必要・不要になる傾向が、企業の職種によって、真逆の状況があるのも時代の流れなのでしょう。七月に入ったニュースとして、今年の一月から六月の保育園の倒産数が過去最多ペースとのこと。保育・障がい・高齢と福祉人材については厚生労働省や子ども家庭庁でも大きな課題となっていると思います。外国人技能実習生などの受け入れについて、いち早く動き出していた高齢者福祉では導入されているところも多く、障がい福祉においても増えつつあります。保育現場ではどのような対策が図られるか焦点になると思います。今後、社会福祉連携推進法人制度の活用や社会福祉法人間の合併が加速する可能性があるのではないかと感じています。

福祉は措置から契約制度に変わる際に市場原理の導入により競争社会となることを取り上げられました。大手飲食店などのチェーン店のような正社員少数名に他はパート社員で現場をまかない、人件費などのコスト削減につなげるなどの話もあったことを記憶しています。赤字経営では健全な事業運営を維持できませんが、利益追求ばかりで社会福祉法人の目的をないがしろしては、事業の意味がないと思っています。経営方針は様々ですが、どのような雇用形態でも、事業に関わる職員が質の向上を怠っては人相手の仕事が作業になってしまい、自ら支援者の存在意義、在りようを手放してしまうことになりかねません。

人の仕事を補うものにICT (Information and Communication Technology) があります。福祉の現場でも導入しているところが増えてきました。実例である日誌や検索ソフトは二十年近く前に導入しています。LAN回線や職員で資料や情報を共有するメ

ールやネットワークシステムも同様です。また、館内外のセンサーやセキュリティカメラについても二代目です。あとは、最新のものかWi-Fiかどうかです。ただ、AI・デジタルツールは日進月歩の一途です。その性能の良さとグレードアップ、リニューアルには目を見張るものがあります。福祉の世界でAIがどこまで役割を持てるかはわかりませんが、福祉は「人」。それを実現するには、人の数や想いが現場になればならないと思っています。水は低きに流れる。楽なこと・ものに依存しがちですが、自分自身を楽な状況に身を置くのと、自らの仕事を確立させてその手助けとして作業効率が良いツールを選ぶのかでは大きな違いがあります。

福祉人材にしても、便利な用具の導入にしても、大きな時代の流れの中、利用者支援のニーズにおける支援者の在りようや、プライドを自らが手放さないようにしなければならぬと感じるこの頃です。

外国人技能実習生などを取り入れている事業者さんからよく聞く話で、日本人との技術に差はあるものの利用者支援や言葉が丁寧。仕事にも一生懸命。日本人の方が自分の仕事に不満が多い……らしいです。

外国人やAIに支援される方が、気が楽だといわれる時代が来ませんように。(私を含め) 頑張れ日本人! ……なのでしょう。

施設長 松永 一博

## 相談より

### マイペースであること

相談業務をしていると「マイペース」という言葉はややマイナスイメージで使われることが多い気がします。例えば、「うちの子はマイペースだから流れに乗れない」「マイペースだから朝の準備が遅い」など。本当にマイペースであることはいけないことなのでしょうか？

「マイペース」の意味を調べると、「自分のペースで行動すること」と書いてあり、「マイペース」な人は「周囲に左右されず、自分のやり方で物事を進める人」を指します。つまり、良い意味では「自分の考えをしつかり持ち、周りに流されない」「独自のペースで着実に物事を進めることができる」人だと言えます。悪い意味では「周囲の状況を把握せず、協調性に欠ける」「時間にルーズ」「空気を読めない」といった印象を与える場合もあるのかもしれない。

また、混同しやすい言葉として、「自己中心的」という言葉があります。もしかすると混同することで「マイペース」も悪い意味で使ってしまうことが多いのかもしれませんが、どちらも自分のペースを重視する行動を指しますが、他者への配慮の有無に大きな違いがあると言われています。

私事ですが、昨年の秋頃から筋トレを始めました。今年の健康診断に向けてです。正しくは始めたのではなく、再開です。過去にも何度か筋トレをしていたのですが、私の場合、意外とやると





決めたらストイックなところがあり、だんだん無理が生じてくるやり方をしていました。具体的には一日に腕立て伏せを二百回と決めている時期がありました。うっかりして、実行せずに寝た場合、翌日は倍の四百回というルールです。次第にこなせなくなり、一日に千回以上しないといけなくなり、三か月ほどで辞めてしまいました。今はルールを緩めて、基本は腹筋、腕立て伏せ、ダンベルをそれぞれ五十回としています。きつい時は無理をしないようにしており、翌日に追加するルールも辞めました。そうすると好きな時に好きなだけして、ということができるようになり、楽しく取り組めるようになりました。調子が良い時はその日のうちに何セットかできる時もあります。

余談が長くなりましたが、自分のペースを知ることとはとても大事だということです。支援の仕事においては利用者さんのペースを知ることです。ペースを知らなければ無理をする、させることになり、支援者が急かしてかき乱してしまうこともあります。ご本人に自覚がなければ、そのペースを一旦受け入れた上で、どこを支援すれば良いのか、どういった環境を整えれば良いのか、私たち支援者が考えていかなければならないと思います。ご本人のリズムを崩さないようにした上で、社会のペースに対して折り合いをつけていくことが重要です。長所をたくさん見つけて、その良さを引き出す支援を心掛けていきたいと思っています。

相談支援専門員 井上 真次

## 主任より

### 底上げ



底上げとは、何かを底上げすることで全体の向上を目指す考え方です。この言葉は、単に個々の力を引き上げるだけでなく、全体的なバランスを保ちながら良い方向に進めることが重要です。「底」は「底辺」や「基盤」を意味し、「上げ」は「引き上げる」という動詞です。これらが組み合わさって、「基の部分を引き上げる」という意味になります。この言葉の成り立ちから分かるように、底上げは単に数字やレベルを上げるだけでなく、その基盤となる部分の強化を目指しています。つまり、上昇のために必要な力や素地を育てることが重要だという考え方が反映されています。

中学・高校三年生は、夏の大会を最後に受験や個々の目標に向けて動き出すことだと思います。私も昔を思い出し、懐かしく、あんなに日々エネルギーに過ごす若者を羨ましく思います。先日、中体連で、姪のバレーボールの試合の応援に行きました。これまでに何度か中学生の試合を観に行く中で、メンバー全員が上手で安定したバレーができているチームは、相手がどのチームでも勝っても負けても安定して点をとることができており、よく声を掛け合い、ミスをした時こそ笑顔でよく声を掛け合い、前向きな言葉が飛び交います。また、チームワークが良いチームは、休憩中でも何気ないやりとりがあり、誰かがコーチに叱られている時には必ず気にかけている子がいて、合間に体に触れて「大丈夫だよ」と念を送ったり、相手を安心させるような声掛けをした

りしていました。

以前、理学療法士の先生から、人は背中に触れると気持ちが悪くなるため、パニック時にも効果的だと教えていただきました。そのため、中学生が自然にそのようなことをしている光景を見た時は、すごいなと思いました。

人には、得手不得手があります。お互いの強み弱みをカバーしつつフォローし、個々の知識、能力向上に努め、チーム内で自分の役割や立場を守り、時には注意・叱責が必要な場面もあると思いますが、全てにおいて相手の成長を願うなど相手を思っている愛情を持った叱責であることが前提だと私は思っています。単なる批判なら誰でもできますし、批判するのは簡単です。課題とすることを今後どのように良い方向に進めていくか、そのためには何が必要か、皆で考えていく、相手が理解しやすいように伝えられているか、伝わっているか、相手の状況や精神状態を見て関わりができているかが大切なのだと思います。

主任支援員 中尾 麻里子



## サービス向上委員会より

### ■健康【看護師 松村・支援員 尾崎・伊藤】

毎月、理学療法士の先生に利用者さんの身体の状態を診てもらっています。足の出が悪かった方が、少しの運動で歩幅が広くなったり、肩の痛みがスッととれて楽になったりと、その場その瞬間で効果を実感できることも多く、毎月貴重な助言を頂いています。また、7月は職員向けに腰痛研修を行いました。それぞれの腰のタイプを見ていただき、そのタイプに合わせた運動方法を実践しました。日々ケアをしながら、自分の身体を大切にしていきたいと思います。

他にも、健康管理の基礎知識を配信しています。何となく…で行っていることが、本当は違っていたなんてこともあります。きちんした健康管理ができ、また、利用者さんの変化にいち早く気づき、臨機応変に対応ができるよう努めていきたいと思います。





## 職員より

今年も大津北小学校より運動会へご招待いただきましたが、雨天順延となり、観覧に伺う事が出来ませんでした。しかし、低学年の児童の皆さんが施設を訪問して下さる事となり、運動会のダンスを中庭で披露して下さいました。高齢の利用者さんは目を細めて嬉しそうに鑑賞され、若い利用者さんは声をあげて応援され大変盛り上がる事が出来ました。

私を含め3名の職員で地域交流委員をさせて頂いています。ボランティアの方が植えて下さったジャガイモをお礼として贈る事を計画致しました。梅雨入りが間近でしたが、担当者で芋の大きさに一喜一憂しながら収穫を行い、収穫後の乾燥・磨き・袋詰めは利用者さんに頑張って頂きました。その後、代表4名の利用者さんと共に小学校へ訪問し、お渡ししたところ、「ありがとう！」と笑顔で喜んでくれました。その姿に利用者さんも誇らしげな表情を浮かべ、大きな達成感を共有できました。これからも大津北小学校の皆さんとの交流を大切にし、笑顔溢れる関係を築いてまいります。

(支援員 後藤)



昨年4月に入職し、周りの先輩職員・同期に支えられながら、あっという間に1年が経ち、早くも2年目に入りました。1年目を振り返ると、覚えることが多く先輩職員に教えていただいたり、先輩職員の動きを見て覚えたり、同期で確認しあったりしながら業務を覚えました。利用者さんと接する時、先輩職員の声掛けに対しては応じられるのに、私が声掛けした時には応じられないこともあり、めげそうになったこともありました。利用者さんからの「ありがとう」の言葉や笑顔に助けられました。1年経とうとした時に、声掛けにも応じて下さるようになり、少しずつ関係性を築く事が出来てきました。今では、1年目よりは心にも余裕を持つ事ができるようになり、利用者さんに接する時には、笑顔を意識して支援を行うように心掛けています。まだまだ覚えることもありますが、利用者さん一人一人にあった支援を目標に、丁寧な支援を行っていききたいと思います。

(支援員 高尾)

## 事務局より



Z世代の影響で、自己肯定感が高い歌が流行っています。最近よく聞く自己肯定感は、自分自身を受け入れ、強い意志や自信を持つ、前向きな言葉だと思います。内面、外面関係なく自分を好きになることは素敵なことだと思います。私自身、とてつもなくネガティブ思考なので、前向きな姿勢に憧れを持ちます。いざ、ポジティブになろう！と思っても性格はすぐ変えられないものですが、些細な事でも喜べることがあったらそのことを自信にとらえ、ポジティブ思考アップに繋げていきたいです。また、仕事を行う上では自己肯定感が必要不可欠であると思います。一つ一つの業務に責任があります。自信を持って取り掛かれないとミスや事故の元になってしまいますが、人間なので失敗することもあります。マイナスからプラスに。落ち込むだけでは終わらず次にどう活かせるかを考えて行動に移せるよう善処していきます。

(事務員 樋口)

## 行事報告

※ 6/21(土)～7/20(日)の実施分について報告いたします

### ★ お楽しみ昼食会【7月10日(木) つくしの里】

カレーやカップ麺、ジュース、デザートなど利用者さんが食べたいものを選び、日々の食事の風景とは一味違った雰囲気、暑くじめじめした空気を吹き飛ばすくらい、活気あふれる昼食会になりました。利用者さんからは、「色々なメニューがあって楽しかった！」「お腹いっぱいになった！」「たくさん食べてどれもおいしかった！」等、嬉しい声が多くありました。

私自身、初めてお楽しみ昼食会に参加しましたが、食事を通して生まれる笑顔というのは見ていて気持ちがいいなと感じました。そして、このような食事イベントで利用者さんと交流し、関係を深める機会があることに感謝し、次回のイベントに向けて準備を頑張りたいと思います。

(支援員 八木)





## 研修報告

※ 6/21（土）～7/20（日）の研修について報告いたします

### ◆ 熊本県障害者相談支援事業連絡協議会研修会

【6月27日（金）くまもと森都心プラザ】

今回の研修では、「これからの地域と相談支援のあり方」ということで、災害時の相談支援の振り返りから、現在の相談支援専門員に求められることまで、幅広くお話をして頂きました。相談支援事業が始まった当初からすると従事者も増え、加算等の整備で、少しずつ運営しやすいような体制に変化してきていますが、「計画相談で育った相談支援専門員の傾向」として、

- ① 担当するケースが多い為に関わりやアセスメントが浅くなり、質が上がらない。
- ② 受けた相談を全て公的サービスで対応しようとして、動機づけやエンパワメントの視点が弱い。
- ③ サービスありきの対応に偏り、地域づくりの視点が弱い。
- ④ コスト意識が強すぎて、業務を効率だけで考えやすい。

という指摘がありました。頭では意識していますが、書類作成に追われる中で、次第に日常の支援が疎かになり、サービスに当てはめる、時間や効率重視といった考え方になっているように感じました。業務が慌ただしい時にこそ、一旦立ち止まって相談支援が始まった経緯や求められていることを振り返り、一つ一つのことに丁寧に向き合い、書類を作るだけの相談員にならないように気をつけていきたいと思います。（支援係長 井上）

### ◆ 菊池郡市社会福祉施設職員体育実技研修会 【7月5日（土）菊池市総合体育館】

昨年度の惨敗による悔しさを胸に、限られた時間の中、全力で練習に励んできました。結果は残念ながら初戦敗退ではありましたが、転んでもただでは起きないパッション溢れるつくしの里の姿は見せられたのではないかと思います。参加した職員はもちろん、練習に付き合ってくれた職員、応援に駆けつけてくれた職員ともスポーツを通して楽しく交流を深めることができましたと思います。私自身も施設で共に働く仲間の意外な一面や特技を知ることができ、良い機会となりました。コート内での自分の役割を素早く把握することや声の掛け合いなど、仕事をする上でのチームワークにも役立てそうな要素が多々あり、今後の仕事に生かしていきたいと思いました。

なかなか他施設の職員と交流する機会も少ないため、貴重な時間でした。また、他施設職員の上手さとチームワークにも驚かされました。働く上で必要な体力・運動神経・チームワークがこういう場面でも現れるのかもしれないと、見習いたいと思うと共に、来年は負けたくないなと今から体力づくりしていきたい気持ちです。（支援員 池崎）



お疲れ様でした★



### ◆ 安全運転管理者講習【7月10日（木）火の君文化ホール】

更新研修を受講し、県内の事故件数や交通事情、道路交通法改正の内容等聞くことができました。

後部座席のシートベルト着用率が低いことの話がありました。事故の検証動画からも着用、未着用における衝撃の違いは一目瞭然であり、つけていなかったために命をおとされたといったケースは非常に多いようです。事故を起こさなくても巻き込まれることがあります。利用者さんの命をお預かりしていることを常に考え、今後もシートベルト着用を徹底します。

また、信号機のない横断歩道の一時停止率は全国4位と、割合からすれば良いと評価されるのかもしれませんが、100%ではない限り、できていないケースも残っているということです。予測運転が不十分で、気づくことに遅れてしまい事故に至る件数も多いことから、社用車の運行時は勿論、通勤における自車の運行時にも横断歩道前の一時停止が徹底できるよう努めてまいります。



（支援課長 今田）

### ◆ 九州地区知的障害関係施設職員研修大会（宮崎大会）

【7月17日（木）・18日（金） 宮崎観光ホテル】

研修は2日間にわたって行われ、1日目は厚生労働省の担当者による行政施策の説明と、競泳オリンピックメダリスト・松田丈志さんによる特別講演が行われました。松田さんの経験を交えたお話は、私たち福祉の現場にも通じる部分が多く、大変参考になりました。

2日目は各分科会に分かれての研修があり、職員それぞれが関心のあるテーマについて学びを深めました。全体を通して、国の障害福祉に関する最新の政策や、今後の重点施策について知る貴重な機会となりました。

なかでも、利用者の権利擁護や地域共生社会の実現に向けた支援体制の整備、本人主体の支援の重要性といったテーマは、これからの支援の現場において欠かせない視点であり、改めて意識を高めることができました。

今回の学びは、施設内でもしっかりと共有し、日々の支援の中で少しずつ実践していきたいと考えています。これからも、利用者さん一人一人が安心して過ごせる環境づくりを目指して、職員一同努めてまいります。

（支援員 松尾り）

### ～施設 PR 委員会

### 今月の1枚！～



牛乳パック作業に挑戦中！！

少しずつ、作業が出来る様になってきました！



## 行事予定



### ☆ 開園記念祭 (つくしの里)

期 日：8月1日 (金)

内 容：開園34周年を迎えます。パフォーマンスショーや

キッチンカーのスイーツで、施設の皆でお祝いしたいと思います。

### ☆ 通帳確認 (つくしの里)

期 日：8月1日 (金) ～29日 (金)

内 容：期日については担当職員より電話で連絡させていただきます。



### ☆ 生活介護班⑤班一泊旅行A (佐賀県嬉野市)

期 日：8月27日 (水) ～28日 (木)

内 容：今年は初の試みとしてグループに分かれて旅行に行きます。



1組目は日頃の作業で頑張ってる疲れを癒しに温泉旅行に出かけます♪

ありがとうございます

今月の掲載分は、

令和七年六月二十一日～

令和七年七月二十日です



### 【寄付・寄贈】

|              |           |
|--------------|-----------|
| ・今村 順子 様     | ・梅田 律子 様  |
| ・梅本 妙子 様     | ・尾田 一広 様  |
| ・清田 すま子 様    | ・坂田 昌子 様  |
| ・田中 幸一 様     | ・中尾 精一 様  |
| ・平田 靖人 様     | ・古川 昌代 様  |
| ・松田 健 様      | ・三上 貴宏 様  |
| ・光永 順子 様     | ・守永 はるこ 様 |
| ・山本 清隆 様     | ・吉岡 健仁 様  |
| ・渡辺 昭子 様     | ・居屋敷の里 様  |
| ・小竹組 様       | ・三協化研 様   |
| ・お菓子の香梅 様    |           |
| ・徳治会歯科医院合志 様 |           |
| ・ほっこりの里 様    |           |
| ・まんしん未来 様    |           |

### 【ボランティア】

|          |           |
|----------|-----------|
| ・村里 和洋 様 | ・木本 ふじ子 様 |
| ・トキヨロ 様  | ・カモメ 様    |

誠にありがとうございます。  
利用者さんの為に使わせて頂きます。



## 編集後記

気づけばセミの鳴き声が響き始め、夏本番の暑さになってきました。熊本は湿気交じりの悶々とした暑さなので、いつになっても慣れません。

熱中症になる人が増えています。こまめな水分補給や暑さを我慢せずに冷房を入れるなど、対策をとって夏を乗り切りましょう。



### 誠にありがとうございます

赤い羽根共同募金様より配分金を頂き、  
車輛の入れ替えを行いました。  
安全運転を心掛けて、  
大切に使用させていただきます！



※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきます。